

2124

古くく考少集

八



古今著聞集卷第十一



蓋圖 第十六

蓋場者五色之章相直萬物之形也道
容止可觀進退有度自想心遊蓋即閑
中之趣也

南有孔賢登騰之八實平此世始之
葛亮速伯出漢良才五倫同二管仲列禹子
產蕭何國二伊尹傳說合公望仲山甫同說李
勳虞世南杜預池華自西田羊祜揚雄孫楚

古今著聞集卷十一

一〇

班固自三桓蒙鄭玄獲武愧寬同二董仲舒
文翁賈誼叔孫通自西一趙主一人此教之
也彼彼麟麟周の功長と譽せしめたるは
亦少やんと然る色紙形と紙紙とれり
道風の下此中又之七度けがせぬ
流の川流よりわきよき流りて
紙紙とるりぞ竹ある兼元小字代の皇居
内裏ありたるに中八の武此なり
世流よりと紙紙とるりて
紫震法孫宣陽振書後弓場陣産中

のちくちくそくれき縁古沙のの内敷れかりき縁
而してはゆえに地程せざくしては東震友の万敷とやめ
られかり耐照居の親毛らのさくそ光られぬり
建出れ造内表の耐少く又田程さくせきある長
くぬて垣は下一太内と一はび勝子とこれとあらせ
くれく三半の耐斗ぞまくれを縁出秘着の儀と
侍さる由や建層小室院よ一川されぬ縁はとど
りりらむる方く事ほ又鬼るれ壁よ白沢生とぬれ
ふ縁のひじりばる小鬼れとみる縁薄れれら
ぬよりれらるるゆとらつてええれもぬりぬれと

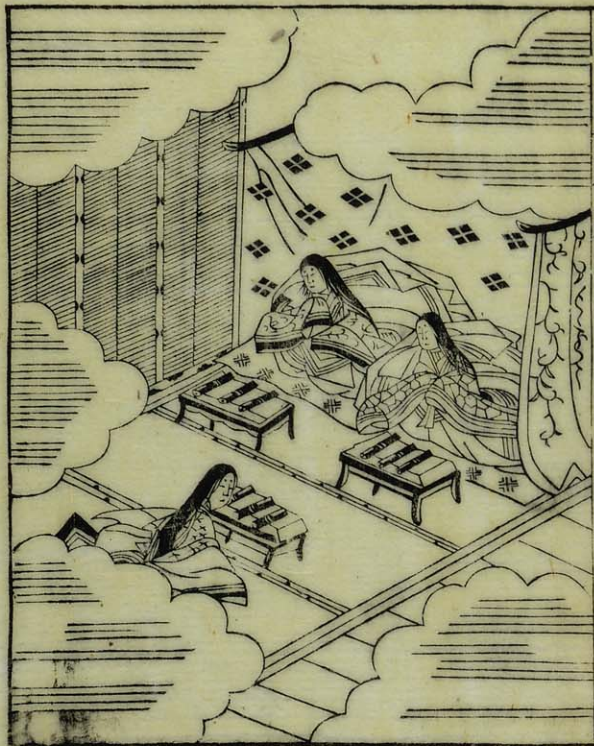
古今卷上

あふ又法縁友れ弘意よつりら勝子ときて愚明
地を志せくきまうそのうら尺冊紙きて片方に中屋飛
あり又を属目れ意つらひある縁うけるも一八親縁に
侍る縁織附よ格さくおねのやぞ皮おおといふ
いた井川のやよりにさくきり雪網のおね幸もや
ぬ大井れ縁紙如く縁縁附よ格さく縁とくわ
々縁ゆりそ又縁の元付は入り布勝子と世酒の勝
子くも替て手長足長とまきりそのやうくは縁
の細代とまり縁少細をが極多ふにば勝子れり
もるへせり一書院あのかに書れらるるそそ大

うゝ馬鹿後の唐徳少毛とれ書かへせり丸
竹り後後りて孫馬もせりこの勝子とまゝて同
後後の小逸物くれわれあり馬形の勝子竹り陣
層の上小雲お家が虎と射つる勝子とせり後
書版の六本由基が後と射つる勝子後書り
あれこれの竹まの四対りりやの年とるげ中法
るぞおぼつる耶々宗院よ大内成るのまれ後を
るの勝子并々軍養はが勝子やせゆ法は
りる勝子と四本の竹出付西園寺相公孫の竹也
られり付以仲の勝子竹下と起て立れり

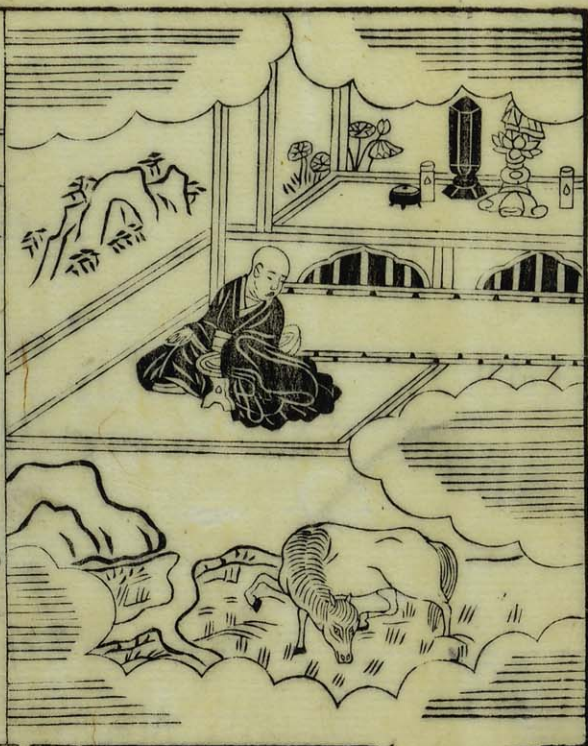
古今卷十一

真る年とい勝子の後中大勝勝後の由念はど竹
かり勝子と逸内裏はとれ勝子の如き書り勝
勝子とりりりりりりりりりりりりりりりり
はるれの勝子と念思り書りりりりりりりりり
勝の竹は勝とといりりりりりりりりりりりり
ての勝書をこれりりりりりりりりりりりりり
竹へ竹りりりりりりりりりりりりりりりり
にりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりり



古今卷上ノ

〇ス三



とてひまをりたりのくまふと知事るものあてて
作らる程又件の子は是ふつら材ぬれくまふと
ふびくし及むる耐人くわやしてはものふんを
あやさてくま書らるるの図をせわりててあ
がりそれよりまぬとせりてりて田舎くぬ事
とて西のりきり

花山法皇書字上人の函をかうまひあはれり
法師とありては山本の師をたがひは法
師の別に法師といわゆるわがうと上人は
派うくはまへてわくうとせられりては山

古今卷十一

ひまをりたりのくまふと知事るものあてて
作らる程又件の子は是ふつら材ぬれくまふと
ふびくし及むる耐人くわやしてはものふんを
あやさてくま書らるるの図をせわりててあ
がりそれよりまぬとせりてりて田舎くぬ事
とて西のりきり
花山法皇書字上人の函をかうまひあはれり
法師とありては山本の師をたがひは法
師の別に法師といわゆるわがうと上人は
派うくはまへてわくうとせられりては山
ひまをりたりのくまふと知事るものあてて
作らる程又件の子は是ふつら材ぬれくまふと
ふびくし及むる耐人くわやしてはものふんを
あやさてくま書らるるの図をせわりててあ
がりそれよりまぬとせりてりて田舎くぬ事
とて西のりきり

弘^{ひろ}の地獄^{ぢごく}爰^{こゝ}に屏風^{びやうぶ}とすたるに樹^いのよりの柳^{やなぎ}と
 さうわやうく人^{ひと}成^{なり}さうあり鬼^{おに}を書^かけりまはるが
 ころん魂^{たま}入^いく及^{およ}ぶと海^{うみ}とさけりしひを海^{うみ}のわき
 ころん抵^{たい}運^{えん}命^{めい}傳^{でん}とねとほしていつ程^{ほど}あええふ
 せり古^{ふる}条^{じょう}宗^{そう} 具^具平^平 御^{おん}堂^{どう}中^{ちゆう}に法^{ほふ}をるに布^ふ條^{じょう}はれ
 役^{やく}中^{ちゆう}どふ今^{いま}の弘^{ひろ}を紙^{かみ}バめさうかうは怪^{あや}しくなる
 づと奉^{ほう}之^{これ}弘^{ひろ}をさへ自^{みづか}覺^{かく}しけり弘^{ひろ}を八^{はち}全^{ぜん}
 思^{おも}が弟^{あに}孫^{まご}三^{さん}深^{ふか}江^えがまの思^{おも}ふより三^{さん}深^{ふか}江^え
 書^かける法^{ほふ}生^{せい}つ海^{うみ}のくく云^いふ中^{ちゆう}今^{いま}此^{こゝ}折^{せつ}は
 八^{はち}全^{ぜん}さうやあ弘^{ひろ}を少年^{せうねん}の附^つむかひてりむかひ

古今卷十一

後^{のち}小^{せう}還^{えん}俗^{ぞく}あるりのくを飛^ととあそねくさ何^{なに}く
 千^ち折^{せつ}の布^ふ細^こきと書^かて依^よ書^{しよ}あけるくあん帥^{すい}の
 おとと且^{かつ}屏^{びやう}風^{ふう}と書^か人^{ひと}をさり三^{さん}深^{ふか}江^えをさうり
 見^みせりきせり三^{さん}深^{ふか}江^えをさうり三^{さん}深^{ふか}江^えのひを海^{うみ}のひ
 野^の船^{ふね}は松^{しょう}海^{かい}及^{およ}ぶくはあそくくひ公^{こう}忠^{ちゆう}が書^かふ弘^{ひろ}
 する承^{しょう}傳^{でん}しきり三^{さん}深^{ふか}江^えが云^いふ思^{おも}ふ屏^{びやう}風^{ふう}と書^かすえい
 必^{かならず}その屏^{びやう}風^{ふう}の望^{のぞ}みのまもあはれおのまを居^い居^いはせり
 あそくはれとれあそくはれあんのくく思^{おも}ふ思^{おも}ふ思^{おも}ふ
 きりわやうかりを海^{うみ}のく
 小^{せう}野^の宮^{みや}のねとくはのくさう海^{うみ}の小^{せう}雲^{うん}霞^かくせんて

常則と先もあれど他りあつたりきつて
あつて先もつてのそつてきつたり後も常則とあつて
足せしれどそつてあつたり毛草もあつたり他もあつたり
そつてあつたり常則とあつたり上もあつたり下もあつたり
八様もあつたり威目もあつたり常則の陰とあつたりと
常則もあつたり後とあつたり法とあつたり一とあつたり
そつたりはつたりはつたりはつたりはつたりはつたり
あつたりはつたりはつたりはつたりはつたりはつたり
あつたりはつたりはつたりはつたりはつたりはつたり

古今卷十一

て蹴けるやかんばあえの玉子る偽真義が骨子
あかん偽たる
徳通法師良親小屏風二百帖小法をませり
たりも中坤元深屏風といふは親お偽れぬ
あかん書物たる大書所すのり後きり時二条あり
まのくせきせてんがり也紙形の中条大酒をぞかき
きり又中又あぬといふはこれなり西平ハ一のいれ
西お偽の物小法にそ又お漢抄ハ屏風よハ中巻
水と書よ小唐法とわたり下の中と法とせり
きり唐法の屏風の突花つてつたりなる紙成章

小治劫一ふき海とぞ

承兼又年四月六日有齋景極女御小治命ありあり
御生の十月の御りの比よりと御生を御いさめ
の御生くふく御よりいつひあつねいふ事を出来
し御生をさそむと御よりよりとあゆむ御命に教
てあつね御よりよりねまむと御ひまむと御命に
てかの玉へ御一御れが御孫よりは御林とふあ
より八万景集までいふ御もさつら御今御撰
赤青柳のいとくより七みまもあつね御景の御
そあつね御もあつね御色御れもあつねとてあ

古今卷十一

〇七

おれあ御よふ人と御よまき今もまきりあ
の御のあつねよまき今れと景の御う御いと
らんあつねくもまきあつねとつねより御ハ御御
花月ふあつねりまら御ハ御あつねとそわあつねを
大屋れあ御の御よ御まきとそあつねあつねまきとそ
お撰御景の御よ御命御ぞ御約まら御房二十人
十人つとつらとく御景く人御御くふりてまき
たり御景の御あ御の御屋御景上まら御の御屋御景
大御云 御房 御景 御命 御約 御房 二十人
侍候 奉平 御中御云 御景 御命 御約 御房 二十人

事とて事れたるを上人のくべるのきこめきり
るなりきれども示りおんおつてきぬ八五人
川つ舟そ事な舟中蘆の内西の面多てゆりた
あてしこまの右なる舟のきとあんさゆりた
のまはあまあゆりてく書のむまひ袋小也
れまむむとあつてねとえくをゆく古今は七
怖わすしきお捨のふれきして取入り事候
さぬく小あつて舟りおあ置候の物とんきり
あはせと後より教書の金の剛漬ふきその
ととつりく事おふ書あはくうりねりおと

古今巻上

さしつうのささしおあつてせり此後緑縁あり
くはん酒みく箱の箱けしり子の透敷け小書
後なきしお怖わすしき捨の事子一怖と八長後
捨さぬくなり打あ三藍のさうく白と文とぬひ
しお教書の金の剛漬よ金の鶴あむさまそ
千とせつとまきりさのあつてか加へて取あつて
らつてひまどとておあゆみどりれさうくは後
とあつてり月御書おれは二時さうく小書さう
たはぬりつと後おあはれと上藤あし後とあ
おへぬりたは佐お右ま書依くくは双紙さう

いふ合とゆわだれたの方より
ありたりてくわゆるいふありて
さうわゆるさうきりや上人
かたよりたさぬればたす
わんよりいふたれくわゆる
おとどとのくつらきりや
いむまゆらひさひの事

みくせはあとのあつみりてたり

卯のむさけるお川の星

くわゆるけりゆめさびなりて
きゆる

主象撥面の流の消え
し二象極通作きりたる
上ゆく珠と打物
流通り撥面ハ
かんじ事
店通り撥面
寺海もやありし
書ての執とり

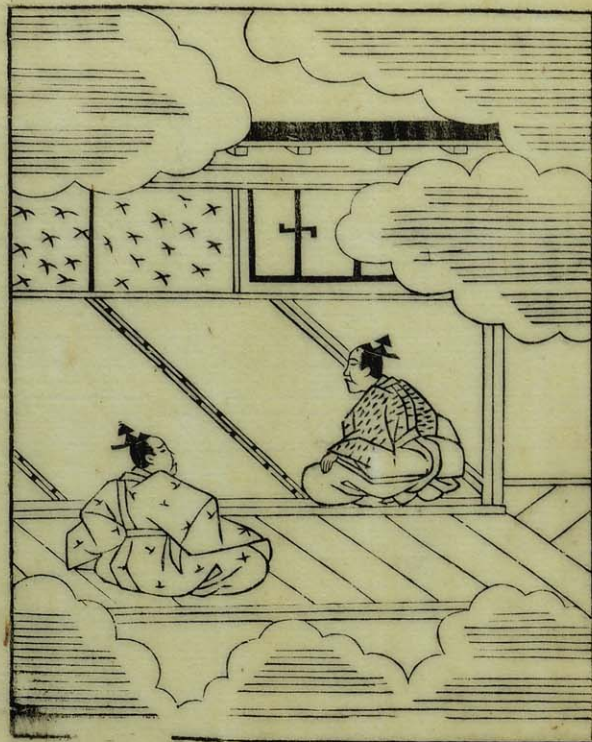
くわゆるけりゆめさびなりて
きゆる
主象撥面の流の消え
し二象極通作きりたる
上ゆく珠と打物
流通り撥面ハ
かんじ事
店通り撥面
寺海もやありし
書ての執とり

やり後て念院内府孝道^{きやうだう}御下^{ごげ}勅定^{ていじやう}ゆよりて比巴^{ひは}と
造^{ぞう}を^を若御^{わがみ}御作^{ごさく}は比巴^{ひは}六^む代^{だい}の^の成^{なり}成^{なり}下^げ
とて孝道^{きやうだう}と^と川^{がわ}れ^れ多^たり^りと^と成^{なり}成^{なり}の^の成^{なり}成^{なり}角^{かく}の^の
事^{こと}も^もあ^あく^くゆ^ゆ多^たり^り成^{なり}道^{だう}と^と成^{なり}成^{なり}の^の成^{なり}成^{なり}に^に
あ^あく^くも^も又^{また}成^{なり}成^{なり}の^の成^{なり}成^{なり}に^にあ^あく^くも^も又^{また}成^{なり}成^{なり}は^は
ゆ^ゆらん^{らん}成^{なり}成^{なり}下^げ

も^も御^ご傍^{ぼう}成^{なり}成^{なり}の^の成^{なり}成^{なり}に^にあ^あく^くも^も又^{また}成^{なり}成^{なり}は^は
全^{ぜん}堂^{だう}の^の飛^と代^{だい}成^{なり}成^{なり}の^の成^{なり}成^{なり}に^にあ^あく^くも^も又^{また}成^{なり}成^{なり}は^は
不^ふ法^{ぽう}成^{なり}成^{なり}の^の成^{なり}成^{なり}に^にあ^あく^くも^も又^{また}成^{なり}成^{なり}は^は
成^{なり}成^{なり}の^の成^{なり}成^{なり}に^にあ^あく^くも^も又^{また}成^{なり}成^{なり}は^は

古今卷十一

あ^あく^くも^も又^{また}成^{なり}成^{なり}は^は
御^ご成^{なり}成^{なり}の^の成^{なり}成^{なり}に^にあ^あく^くも^も又^{また}成^{なり}成^{なり}は^は
と^と成^{なり}成^{なり}の^の成^{なり}成^{なり}に^にあ^あく^くも^も又^{また}成^{なり}成^{なり}は^は
たり^りと^と成^{なり}成^{なり}の^の成^{なり}成^{なり}に^にあ^あく^くも^も又^{また}成^{なり}成^{なり}は^は
成^{なり}成^{なり}の^の成^{なり}成^{なり}に^にあ^あく^くも^も又^{また}成^{なり}成^{なり}は^は
ゆ^ゆ成^{なり}成^{なり}の^の成^{なり}成^{なり}に^にあ^あく^くも^も又^{また}成^{なり}成^{なり}は^は
成^{なり}成^{なり}の^の成^{なり}成^{なり}に^にあ^あく^くも^も又^{また}成^{なり}成^{なり}は^は
成^{なり}成^{なり}の^の成^{なり}成^{なり}に^にあ^あく^くも^も又^{また}成^{なり}成^{なり}は^は
成^{なり}成^{なり}の^の成^{なり}成^{なり}に^にあ^あく^くも^も又^{また}成^{なり}成^{なり}は^は



古今卷十一

○又十



のくゆは只今りりき海あけりし中へ新小敷尻
りりし母りりりこれちある難小ゆとやされば法皇
作し海く事とねて後とあさあもたたり

作入の道はむさねくうり後とく書行り父らと
わさふあんとりきり下下に切分れ時父の家れ
中門の廊の壁ふらりけの目色ゆく不勤の立
多し海と書よりきり寂客人経とくや怪小中一と
忘よたりあれとんて事もかたえゆれりやねと
さぬり帝へ宛ふて向きれてわすれ打りひて
きり海とくさ此の書るやゆらげは息の小

古今卷十一

事か書えゆやゆれれれゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
はし海ゆゆゆ事制ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
々海ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

桑木世書良の時権念右大臣上海ゆゆゆゆゆゆ
ゆり書良の時権念右大臣上海ゆゆゆゆゆゆ
かかかかゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
きり海幕下りされたるゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
てりねゆゆ眼とめてゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
もて返上せゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
と思ふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

後を御成儀存候事入とも御もえり世終く御
ましに比ふよ水章のくちとて御実御下は御
きそ三某の御給ふかせしれり八氣九長光
わぶの峰もあな名れた長あく竹岸一終り圓見
守家あくと御今八世御の御は御くわびの事
御のまよりごうりわく実御の御りなり

御酒度の四位の時わくじき御魂廻れを御さ
りる名御はくごきとて蔵人者時は風俗催る
系の名并小を御此御の中みよとありねべうん
ハハハ金さし御定まされは御御をりを御

古今卷十一

みよもの入より御せられ御てしえ何とあてを
各よ御の御りよごりよそ御面は御小くまんと志
々の時そをくはきの御六なれあそ御が御り
中よ御の御りたや人ありごりは御酒を御見
御標ゆえにありせりはあきの御ぶつを御用
あご御それ御御りか御く御く御まご御御書
てまよせありせりは御下てあれはありく人ま
ごあま御り書つる御れはあり又ひ空あ御そ御
御御の御御く御御きた御御つまびく御り
御り一兵ごかり御れあつて御りわりて御り

中しれりしてのそ事、西辨那、山人、
山人、中し、中、佛、法、を、そ、と、ら、わ、く、ま、だ、か、小、さ、り、し、て、
孝、道、を、ト、小、し、く、し、り、を、れ、で、風、俗、を、さ、ら、へ、て、作、
中、の、大、多、の、羽、小、を、お、し、り、し、り、精、を、し、て、
や、う、し、ん、と、を、推、さ、し、て、お、さ、す、て、お、し、り、し、り、
言、れ、と、し、く、お、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、
さ、ら、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、

後、法、に、お、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、
踏、車、小、さ、り、し、り、し、り、し、り、し、り、
藤、壁、の、方、と、し、り、し、り、し、り、し、り、

古今卷十一

大、庭、坊、政、女、院、の、所、方、お、し、り、し、り、
づ、き、女、房、達、お、し、り、し、り、し、り、し、り、
女、院、の、所、方、お、し、り、し、り、し、り、し、り、
小、書、を、お、し、り、し、り、し、り、し、り、
え、お、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、
お、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、
く、の、物、お、し、り、し、り、し、り、し、り、
お、し、り、し、り、し、り、し、り、し、り、
雜、給、二十、余、お、し、り、し、り、し、り、
二、合、よ、の、お、し、り、し、り、し、り、

如ど少後れ終ふくくつゝ多うりさうしく也中
まに目ありそあきらむ流の血方小多持くせあ尸
されたれあつた終のいあしどま也される然二三
をねねあふ人の小多ありさうしてをせききれば極
ふさうひやされくいで真さきりも終秘流は終ら
かされりあ方終流も非表方へのせききけら
其さをりしもうてのらに流終へありありさうと後
肉肉のまえを肉のりさる今らいばさうは凡時代
の終もるさうはゆる終もはねいとおへくうせ
終ねさうねら筆れせきみされも終へのありさう
ゆ々わあられりさう

古今卷十一

同中耐細捨と中好ありさうに中下痛中流身末の
終に終系持を文信実おとせたりかせききさるに
を射水親その終もあそあさうる白種さ
中面よみせ海が終りあされさう耐を力とさうて人終
もやたりさうのやどら終んみえはさる

終際を備法眼覚をが背子にりさうりやと也いお
法眼のさうり堅う終又遊まの終ら終終とくお使中
お編の事さきり去服終よ折いされも幸ゆを程
へさるはは法眼終もさうり書さ海りのみくも

地獄のありさぬ少くまひをとり終りたりとわたりしきり
中身よく命一命も亦なくさぬく書ええん
どのうらう、河井へ去時莊（おきてりてまのりたりの夫
小アをたれど折紙とてに紙甲さんたれなりと
れども終ま真の心なりともさく折てさぬか
終ふも亦司まへも折紙の心なりくあはへ
と終まきりつめふらふなり伴の法中 折紙書字
度ふわさわり

一條の折紙をたれ長ふかりしき時時終まとて
まろんとて一條空町の山所と光の筆も入道直前

古今卷十一

月廿七日のうらうらまきりつめふらふなり
られり寝る二折の序なりついで唐紙の念を
平太直家飛の心まはれ山屏風と二条実白長者ふ
てかりしき心ふりきれくおかりくつれはなる人
くの筆もこれ首終あくとゆるゆるせ、足利の利
成感直代統てこれよみもあつぬ人たさく天おかり
勝縁神の心幸りし由邊の上ふ虎の皮とおはる
りやぬり心事たぬり終へ終へく真ま兼保の贈
りやぬり虎の皮とおはるれなりと心とおんを

大友氏内親王の屏風もいへば宝物小つた
とて一ふれがとて同まれば大和法と二月とつた小書
て何と巨く洞せう種さうしくかんてあるは此時書
度ふまう御と元日の書舎ハさう多院の書と書
て竹ある近岳の此時此月の書は津みれあれあ
りやうとたれとさうぞうれさうしく奥の書り
あん竹あり

蹴鞠 卷十七

蹴鞠の逸遊も前をく壯観て文武天皇太皇元年
ふび無始ありを御とくや白粉之上添樹 景二六
射凍反翼おあ感真辨遊若く
後二系反三月の比白河の御院へ書給く蹴鞠の令と
々々れあがりさそくさみのさう御書給とさうて
片もれ前法の手書れ蓋は流石御と書給あはく
響く日後の乃れ田郷もましくゆみまどり西むをを
ありぞれて日後の乃れ書とれあかす西鹿うけて作
りやうとてハとせ法とて捨扇のされさすす

まじりくありきりぐまきし麻智はく西垂衣はくり
より夕麻がまじりく三重敷ふり門をていざびりくま
又つらりゆく出鞠をきりゆく門へゆく麻さうり
せん竹たり

知豆酒なつくありきりきり時白川の逢せまりた
去してのをりやとこのよはゆゆの巨とくまきり兼座
へりまじりたれはありくし麻敷るえ深系紙と具
せしと作りきりたれは百あつたりとたり麻と兼さり
たろ紙大よのまじりくまきりくと麻くゆりゆりゆれん
法着れ布物衣さうまきりす麻紙ゆきとる麻紙ゆれ

古今巻十一

指栗濃色の二衣字衣さうまきりよとまじりたれは兼されは
くまや作りたれたりとく麻敷るまきりや麻食せり
まじりくまきり

持法大綱云成通の鞠ハ凡まじりさうまわくまきり
はははくまじりたれは鞠を好えのりやまじり下まきり七十日
その中日をくまじりたれはまきり二三日は痛まじり
まきり鞠と足ふわて大毎の時ふたは麻敷ふゆまきり
まきり麻けり十日のまきり此日ハはくまきり鞠二日
わたりわげくまねまじりまきり鞠紙まきり麻を
まきりまきり一の鞠は鞠とまきり一の鞠はハまきり一の麻敷

の附つけりやう小直すゝめよりた付つけてはゆかりれはゆかりぬ附つけり
 ちげさ林はやしきりたゆかりは又極きわめしは鞠まりとの腰こしせはゆ
 代しろの必要すべからず人ひと自みづかり福ふくする命いのちをなかく福ふくを後あと
 せまへるとゆえとの又また向むかむと人ひと富とほまゆり命いのちを
 病いせは福ふくやん事ことはさうやあらん後あとせまへると所
 ゆりまれとゆまた鞠まり性しやうゆとゆえおゆゆととと
 をねと人の身みふ一日いちにちの伸のびよいうととと那なととゆい
 罪つとゆり鞠まりか好よを結むすつた小こ直すゝめせ結むすねまは鞠まりゆ
 よりゆよとと事ことわけまはりゆはゆは後あと世よの縁ゆかりとあり
 切き断つまみりてとと那な好よまゆ結むすつととゆまゆとの附つ

のさあかか後あとかゆせをまづてゆいゆのりてまはゆい
 ゆえに但ただは鞠まりハ好よゆまづまらねまらにまはゆい
 まよも今いまより後あとハまはゆあつてはゆかりとゆい
 ありまはゆとゆゆとゆいとゆまゆのりては鞠まりまゆいゆ
 行くゆりあゆまゆゆとゆいゆまゆまらまらまら
 かりまはゆまゆゆらまら鞠まりまらまらまらまら
 まらまらまらまらまら鞠まりのゆまらまらまらまら
 まらまらまらまらまら鞠まりまらまらまらまら

或ある付つけりの大おほ整ととののよ小こ直すゝめなまらまらまらまら
 せけまらまらまら大おほ整ととののよ小こ直すゝめのまらまらまらまら

ふさくせざりきり鞠の着せはつきたる大懸のうへよ
 只當と垂んきく着はせし一まてまをさ踏てその
 着はせしせねしやとのまへさて又侍七八人と
 べ着せしき端小着を添うりし身小着と踏て世と
 とはせしき小まりとけしきせりも侍は法師入
 ちせりといふうりて踏て頭とさそとけしきせり
 切しき半つて着せりてまりてはうりていしき
 中とられしは着小の着のわうりしはは是ははり
 着はせし小まりとけしきせりも侍は法師入
 法師ハ又奉せと着る程のわらはしきいしき

古今卷十一

ドきつ又又のぶらうてはあは小懸くきうりまはは
 着はせしき端小着と踏て世と
 あははせりて別鞠より玉蹴てわうりきり又玉蹴
 鞠はくはせりて見りりり月蹴かごりり又玉蹴
 きて馬ははせりてわうりまははわらうり
 とてさて追外とく一月中いしききせりきり
 又懸てはせりてわうりまははわらうり
 小丸より百度より百度二及小二百度とわけて
 さいりきり鞠はくあはせりてわうりまははわら
 きはせりて別鞠より玉蹴てわらうり者大いしき

してわあわいうらぐ別あいつてわくどうりけふに纏つみ
まわくせうんとてわだの勢とつねきせりあまてそ
ふまうくわだの勢はほきり細よりちちちてそ
まうりきり又又江の坊門の魚の下にまどくりり車
たわりきり狐うさぎかたふして鞠のまきりきり車けけ
あきぬびくふきり鞠とわくしきりたた細ちち
まそそハむらふくくはとてまきりくくまきりけ
まいのたのりえ鞠ままきりまきりくくまきりまきり
まれままきり鞠ままきりまきりまきりまきりまきり
かきりまきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり

古今卷上

まいの鹿のうまきりまきりて鞠ままきりまきりまきり
くくまきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり
は見けん見けんまきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり
あきまきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり
くらぬまきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり

日まり成たりく何げくま毎りきるはは凡の物と成
わがらやうに善悪付てり中のくる程り重により
て空の中ふかく是は成ててい何うもきりふも成へ
き成ててい半成云あなり一葉林ふもまてり
とぞあれもはは佛よ救り又大納言そのか
佛とて是佛と遠てせしめれりきり付り
の臣屋とわけく格ふれり中法とせくけくまてり
多に成道にわあうる若りきるに意あき鞠とあ
きりまら成がまり稽子と成との中ふ入る成ふ
つとえ成へるまき成が又のあを骨ありきまこバ

古今卷上

まるとしてよのせそその極成とあまびりておくれ
えどりうのやうに飛くくまてりきり九まればまこ
あわらざりきり象一初よばまんどうぐりて成り
とぞ自操せられたるたこいお納言はりくどうかう
とやまごさ好格く築比のそとらうの捨擲はと
かともさうられたり又屋の上ふ外て操りりそ
ひくお光へお成せし何おまをきり又は制止
せられたるからばはる成多羽作中成てお割出
まされどもおやまざりきればはあふまてはるお成
このひの何く捨つるま中たれたれたさしは捨

いふに但承納のるに河に舟を引くは僮僕一二人
を引まじり置れり且一人舟を引て車れを引れ
りらゆらりありぬね何車の轆と云ふは車に引く
小なるの轆と云ふは舟を引るを引て舟を引く
又は船ももせんは舟を引るの舟の用と云ふは舟が
こゝ後の治は制止ありたり

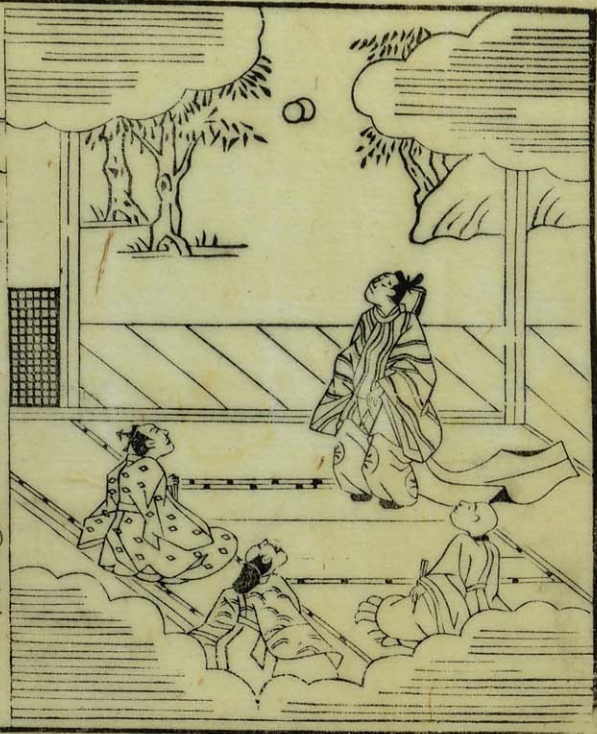
宣成房は成るに志願せしむ終りたりする時片思録
宣成房は作く四立を引くは舟を引る舟を引る
きり航り其鞠二まの色よりするは舟を引る舟を引る
ひまり二が善悪と云ふれたり舟を引るは舟を引る

以て河に二毛鞠めてト云ふは舟を引る舟を引る
二まよりより舟を引る舟を引る舟を引る舟を引る
きまれば舟を引る舟を引る舟を引る舟を引る
わたりてきねぬ舟を引る舟を引る舟を引る舟を引る
と云ふは舟を引る舟を引る舟を引る舟を引る
みまは舟を引る舟を引る舟を引る舟を引る
頗り感し舟を引る舟を引る舟を引る舟を引る

安元御実の時之位形捕らる舟を引る舟を引る舟を引る
よめ舟を引る舟を引る舟を引る舟を引る舟を引る
の子御御税と云ふ舟を引る舟を引る舟を引る舟を引る



古今卷十一



○又九五

中より八廿二大由客の鞠つり海川あそぶ事あふゆりのち
 楽しめたるい但幸れ老もこの人のわが鞠のていつ
 そのわりあせりせり又ふ事えむおもとのへ川をこぼして三
 是けんしふありあそふか世々身よの鞠ひ七十の後三
 そくれ上鞠え昔あんとり又はあくと人成るさくは
 二のひせんしあふあそふをさして誰より鞠をいゆつり
 後へ二三のふあふあそふ通つりふゆつらんとてあそふ
 こといふは月とせはつるやとあふと海なくとも何
 うつらうめん漢法入るは曾子あくと終るわり終るの
 曾子ふたはた大酒をさ大酒をけ曾子あてあたりこれか

をお通るよりいふそのいをそれをもあそびそれをもあそび
 りてするあそびあたりとせもひつらんとあそびあんと
 がこのふまふ

治承三年三月有四方なる人のくたは酒四所七糸
 ありけ昔あそび酒の壺やくあそびりそそり上
 麓中ふ日とせわりかきそりの内在長吟ひひき
 あそびる海にせはるるは望み付衣やく蹴させわたり
 一そりにこにたりさせるるあそびもあそび
 形に形備わつたあそびひくそそりたりあそびあそび
 中いふ法解鞠もめされたりあそびたりあそび

くろきゆるりなりなり

後者朝院の御翰を致せしより、元二年正月七日こ

れらの書者と号し、まこと中按察使泰庭の前、隆興寺の

書物に、有洋持雅院の御署、くろきゆるりなり

頃、隆興寺の御書湯洗を承け、幸加しく、遠近の御翰

を承り、主上院用白委前、右殿右殿、御書御書、御書御書、御書御書

御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書

御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書

御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書

御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書

古今卷上

〇二十七終

聖教御書、久継、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書

御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書

御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書

御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書

御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書

御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書

御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書、御書御書